2006
No. 4
Nov.

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111 ＦＡＸ03-3894-0282 http：//www.twmu.ac.jp/DNH/index.html

部長就任のご挨拶と内科外来の紹介



内科 教授 大塚 邦明

東医療センターは東京都城東地区の中核病院として地域住民の信頼と必要に応えるとともに、大学病院として診療・教育・研究を推進しています。当病院内科は、内科各分野の専門機能を高度に維持しつつも、患者個人の総合的な健康状態の最善を目指す、総合的な内科診療を実践して参りました。内科疾患の専門分野的医療に偏ることなく、内科領域におけるすべての疾患分野の患者様を、常に総合的内科的視野から診療する、総合的内科の完成を目指す姿勢を踏襲して行きたいと考えています。

並行して、総合的内科学に立脚した「加齢・老年病学」の分野を開拓して行きたいと思います。老年者の医療においては、単に疾患の診断と治療に終始するのではなく、精神的、身体的、社会的な評価を行って、これを的確なケアにつなげていくという姿勢が肝要です。高齢者が如何に老年を生き、病んで、どのように死を迎えるかまでも視野の内に入れ、「人間の学としての老年医学」を展望することが必要です。老年医学の大きな課題は、どのようにして充実した質を維持して、死に至らしめるかということにあります。それ故、介護・ターミナルケアに十分に視点を置いた老人医療・老年医学が望まれます。

総合的機能評価ＣＧＡ(Comprehensive Geriatric Assessment)は、こうした日常生活機能の面から評価していく診断技術です。認知症外来、転倒外来、誤嚥・窒息外来、脱水・栄養低下外来等の、特殊外来の創設に取り組んで行きたいと思います。

内科疾患の専門分野的医療に偏ることなく、内科領域におけるすべての疾患分野の患者様を、総合的視野から診療することができる内科医を養成することを、卒後教育の主眼としたいと考えます。医療のみではなく、福祉や生命倫理と連携してこそが、より良い老人医療につながることを教育したいと思います。

形成外科外来の紹介



形成外科 助教授 仲沢 弘明

東京女子医科大学東医療センター「形成外科」は、平成１６年７月１日に新体制となってから２年半が経過しました。お蔭様で、荒川区や足立区の近隣医療機関からはもとより、遠く埼玉県の医療機関からも多数の患者様が紹介され、外来患者数も順調に増加しております。

「形成外科」とは、体の一部の変形や欠損などを修復する「再建外科」と、本来疾患とはいえないほどの、患者様本人が気にされるところの微妙な形状を治療対象とする「美容外科」とが柱となった、機能回復とＱＯＬの向上を目的とした外科学であります。再建外科は、外傷や癌などの手術で失われた組織を作る外科であり、乳癌術後の乳房再建がよく知られております。近年、マイクロサージャリーの発達に伴い、切断された手指の再接合や、すでに失った指も足趾移植により元通りの指を作ることも可能です。当科のもう一つの看板として，熱傷治療があります。

当院救命センターに搬送される生死に関わる重症熱傷から、中等度から軽症熱傷まですべての熱傷治療を行っております。たとえ小範囲の熱傷であっても、整容的かつ機能的に問題となる事がありますので注意が必要です。また、熱傷が治癒した後の瘢痕や拘縮に対しても「再建外科」として治療する事が出来ます。

一般的な外傷（切り傷、擦り傷など）や熱傷のほか、良性皮膚腫瘍（粉瘤、脂肪腫、ガングリオンなど）や皮膚悪性腫瘍（皮膚の癌、肉腫など）、陥入爪や巻き爪、下肢静脈瘤、褥瘡や難治性潰瘍（糖尿病などによりなかなか治癒しない傷）、瘢痕（傷跡）、瘢痕拘縮（傷跡によるひきつれ）、ケロイド、先天奇形（小耳症、母指多指症、合趾症、ロート胸、唇裂口蓋裂など）を扱っております。また、顔のしわ、しみなどの自費診療の「美容外科」も行っております。

詳しくは、東医療センターホームページにあります、各科の紹介「形成外科」をご参照ください。さらに、形成外科に興味のある方は、日本形成外科学会ホームページ(http://www.jsprs.or.jp/)、熱傷に興味のある方は、日本熱傷学会ホームページ(http://www.jsbi.burn.org/)をご覧になられることをお勧めします。

産婦人科外来の紹介



産婦人科 教授　髙木 耕一郎

産婦人科外来では思春期から更年期・老年期にいたるまで、女性のライフサイクルにかかわる疾患を中心に扱っています。当科の外来は産婦人科一般の患者様の診療を行う一般外来と、専門疾患の診療を行う特殊外来に別れており、初診外来と、受診日が不定期となる不妊・内分泌外来以外は基本的に予約制をしいております。

外来診察室には、第１、第２、第６、第１０診察室と６室の内診室（第３、４、５、７、８、９診察室）、指導室、超音波検査室の他、臨床検査室があります。初診では第２あるいは第６診察室で問診を行ったのち、内診が必要な場合は内診を行います。初診で検査・治療方針を決定し、次回から予約により婦人科再来で診療を行っています。当院はＮＩＣＵを持つ地域周産母子センターとして東京都の周産期ネットワークに参加しており、産科外来では一般的な妊婦健診に加えて、多胎妊娠、糖尿病合併妊娠、心疾患合併妊娠、高齢妊娠などのハイリスク妊娠の管理を行っています。したがって、外来診療中でも入院中のハイリスクの患者様の状態を監視出来るように、院内ＬＡＮを使って、胎児心拍のモニターが３つの診察室に表示されるようにしてあります。

妊娠中の超音波検査には、胎児発育や妊娠週数の確認などの目的で定期的に行うものと、ハイリスク例を対象にカラードップラーや３Ｄの超音波検査を行うハイリスク超音波外来（病棟の超音波室）の２系統があります。

妊婦管理には助産師の役割は重要であり、妊婦保健指導、母親学級、両親学級を担当しています。不妊・内分泌外来では、人工授精までの不妊治療と、月経異常の診断・治療を行っています。腫瘍外来では主に当科で悪性腫瘍の治療を受けられた患者様のフォローアップを行っています。

思春期外来では女性医師により、月経発来の遅れや月経異常などの疾患を扱っています。産婦人科外来の担当医は常勤医師の他、女子医大産婦人科の出身で、それぞれ自分の城を持つベテランの非常勤医師からなっています。患者様をお待たせしないように、従来、１列で行っていた初診外来は、混雑する曜日は２列で行うことで、待ち時間が短縮されました。これからも外来の助産師、看護師、検査技師からなるスタッフと医師との連携を基礎として、患者様に満足していただけるような医療を心がけて参ります。

開業医小児医療研修を終えた感想

平成１４年度から東京都が東京都医師会に委託するという形で、「開業医小児医療研修事業」が開始されました。当院も研修実施病院として参加し、４人の先生方が研修を終了され、現在、お２人が研修中です。

平成１４年度：柳澤孝嘉先生　柳澤診療所（足立区）
平成１６年度：田中隆夫先生　東京ほくと医療生活協同組合汐入診療所（荒川区）
平成１７年度：小原共雄先生　小原医院（荒川区），　松岡　浩先生　上智厚生病院（荒川区）
平成１８年度：平野浩二先生　北千住西口みみ・はな・のどクリニック（足立区）
　　奥田隆博先生　おくだクリニック（足立区）



小原医院　小原　共雄

平成１７年９月から１２月の約４ヶ月間に約６０時間の小児科研修をさせて頂いた。内容は、専門外来・救急外来見学、採血や腸重積整復の介助など実践的な事、Ｘ腺カンファレンス出席などである。

女子医大小児科外来は待ち時間が長いとこれまでも患者様の母親などから度々聞いていたが、それも仕方がないと今回納得した。なぜなら、第一に先生方の診察が丁寧な事。アナムネ聴取も詳細だが、結果の説明に相当な時間をかけている。第二に患者様側の問題。子供には責任はないが、付き添いが病状を知らない祖父母であったり、日頃の処方箋を持参しない母親、さらに外国人も多く、理解力の問題など。これらで時間がどんどん過ぎてゆく。

また、最も印象に残った点は、先生方の責任感。

例えば休日の救急外来などでは日勤の先生は準夜間の先生に引き継ぐわけだが、なるべく自分の時間内で患者様の病状を好転させ、準夜などに再診させないよう十分治療して帰宅させている。喘息患者様の治療では、吸入→点滴→吸入など、十分時間をかけていた。とかく自分の診療時間内は何とかなればいいかと思いがちだが、この点は先生方によく徹底されていると感心した。

ある夜間救急外来担当者の先生がおっしゃっていたが、「小児科医は夜作られる」そうだ。やはり、夜間の救急患者を診られてこそ一人前なのであろう。

それにしてもお忙しい先生方。せめて食事やトイレの時間が十分とれますように、祈っております。

卒後臨床研修初期研修を終えた感想



小児科 医療練士 唐木　千詠

平成１６年４月より２年間、この東京女子医科大学東医療センターで臨床研修医第１期生として研修させていただきました。

当院の臨床研修は１年次の内科、外科、救急医療科、麻酔科と２年次の小児科、産婦人科、精神科、地域医療の必修科に加え、８ヶ月間の選択科研修で構成されています。どの診療科においても、大学病院でありながら地域に密着した基幹病院でもあるという当院の特色がいかされており、医師としての診療の基礎をこの病院で学ぶことができたことは大変有意義でした。例えば小児科では、呼吸器管理を要するような重症な症例から数日で退院となるような症例まで多岐にわたる疾患を経験することができ、その中で基本的な診療や手技などを一つ一つ学ばせていただきました。

また当院では、日中の臨床研修とは別に、２年間を通して行う「夜間・休日１，２次救急外来当直」は当院の研修システムの大きな特徴の一つであり、この救急外来当直なくしては私たちの研修は語れません。毎日朝まで様々な訴えをもった患者様が来院され、その一人ひとりにまっすぐに向き合い、診療に全力を尽くしました。睡眠不足や疲労のために辛くなることもありましたが、自分自身が行動しなければ目の前の患者様の問題を解決できないという責任感、緊張感から何度も自分の気持ちを引き締め直し、同期と励ましあいながら夜間救急を乗り切った思い出は忘れられません。

この２年間の研修医生活は毎日嬉しいことや辛いこと、本当に色々なことがありました。そしてどのような悩みも医師として社会人として初めて歩み出した私に大切なことを教えてくれたような気がします。この東医療センターで研修できたことを誇りに思い、胸を張ってこれからの医師人生を歩んでいきたいと思っています。

こんな私たちを温かく見守りそだててくださった指導医の先生方、看護師さん、他スタッフの方々に感謝いたします。

ありがとうございました。



外科 医療練士 服部　晃典

本年の３月３１日、東京女子医科大学東医療センターでの２年間の初期臨床研修を終えることができました。

最初は不安もありましたが、振り返ってみると有意義な研修であったと思います。臨床研修初年度ということもあって最初は手探りの部分もありましたが、研修を経るに従い徐々にリズムが出てきたように思います。

具体的な研修内容としては各科での１ヶ月から数ヶ月づつの研修でした。特に救急外来においては最初のうちは目の前で患者様が苦しんでいても何もできなくてオロオロしてばかりでした。当番日が近づくにつれ調子が悪くなり、逃げ出したいと思うこともありました。しかし、各科の指導医の先生方から多くのこと教えていただき少しづつではありますが、成長することができました。

２年間忙しくてつらいこともありましたが、がんばることができたのは先生方に良くしていただいたのはもちろんのこと、同じ目標をもった同期の仲間たちと気持ちを分かち合うことができたからだと思います。先生から教わったことを教えあったり、困ったことを相談したり、時には意見しあったりすることができたことが大きな支えになりました。

同期１８人はそれぞれ進路が違いますが、これから先もずっと相談しあえるような関係でいられればと思っています。

２年間の卒後臨床研修を終えてはや半年が経ちました。

私は現在、東医療センターの外科に所属し、外科初期研修を行っています。臨床研修で得たことを生かし、また様々な方向に進んだ同期たちががんばっていることを励みに今後自分も努力して参りたいと思います。



外来棟３Ｆ　形成外科・産婦人科

患者相談室の紹介



患者相談室室長
看護部長 鎌倉　里美

当院では患者支援の一環として、「患者中心の医療の推進」を図ることを目的に、平成１６年１２月より患者相談室を設置し活動していますのでご紹介致します。

相談室の運営メンバーは患者支援担当の副院長の私が室長を努めています。委員は業務管理課・医事課・医療安全対策室・医療社会相談室・地域連携室・患者相談窓口からの代表者で構成しています。

活動としては外来棟案内に「患者様相談窓口」を設置して、専任看護師（師長）を配属しました。ここでは「何科に受診したらよいかの受診相談」「医療に対する苦情や疑問」「職員の対応が気になる」等の患者様やご家族からの相談や訴えに対応しています。又、来院された患者様の案内や車椅子移乗時の介助並び安全について気配りをしています。

委員会は月１回定例で開催するほか必要に応じて随時開催しております。そこではそれぞれの部署で対応した中で問題のケースについて検討し、患者様やご家族側の立場になって解決・改善に取り組んでいます。

その内容は、医療従事者としての接遇指導や待ち時間を短縮するための業務改善、室料差額への不満対策などから、解りにくい場所の案内板の見直しや設置、床の段差の改修や手すりの設置など多岐に渡ります。

クレームや検討した内容は、部長会、医局長・職場長会、看護師長会等で発表し共有をはかっていますが、職員全体として共有することが今後の課題です。

当院を利用されてのお困りや問題・苦情などありましたら「患者様相談窓口」をご利用ください。そこから得られる情報が、患者中心の医療を目指しての改善の糧となります。これからも患者様やそのご家族の方が安心して満足な医療を受けられる地域の中核病院として努力していきます。

＝連絡先 担当師長 PHS 03-3810-1112-7834＝

ホームページをご利用下さい

患者様から多くのお問い合わせがありますので、よくあるお問い合わせＱ＆Ａを掲載いたしました。どうぞご利用下さい。

防災訓練のお知らせ

□トリアージ講習会
日時：平成18年11月７日(火)・８日(水)
午後５時15分～６時15分
場所：看護専門学校１階教室

□防災訓練
日時：平成18年11月17日(金)午後２時～
場所：旧東京電力訓練センター跡地
内容：テント設営訓練・消防訓練・トリアージ訓練・給水訓練・非常食炊出訓練等



患者様への車椅子移乗時の介助

地域連携室よりお知らせ

室　　長　小児科教授　杉原　茂孝　　担当者　古賀三枝子・佐藤さみ子
代表電話　０３-３８１０-１１１２(ダイヤルイン)　内線４４５１　　ＦＡＸ　０３-３８９３-０７７２
※ 当院専用の診療情報提供書(紹介状) 用紙をお送りさせていただいております。
※ ＦＡＸにて診療申込受付が出来ます。
(事前にカルテを作成いたします。患者様は受診される科の窓口へ直接お越し下さい。)
※ 診療申込書はインターネットからダウンロード出来ます。
http：//www.twmu.ac.jp/DNH/annai/gairai/dl/sinryoumousikomi.pdf

お知らせ

第９回「東京女子医科大学東医療センターフォーラム」
日時：平成１９年２月３日（土）　午後３時より
場所：ホテルラングウッド 荒川区東日暮里５-50-５
TEL ０３－３８０３－１２３４

お問い合わせ先：地域連携室　内線 ４４５１又は
業務管理課　内線 ４４３３
詳細はホームページに掲載予定

編集後記

菊薫る候となりました。秋の夜長をいかがお過ごしでしょうか。
さて、今回は患者様が来院されて、最初に受付をされ、診療が終わってから最後に会計をされる外来棟の紹介です。外来棟は平成10年７月に竣工しました。Ｂ２はリハビリテーション部、Ｂ１は検査科、１Ｆは医事課・患者様相談窓口・検査予約センター・医療社会相談室、２Ｆは内科、３Ｆは形成外科・産婦人科です。４Ｆは次号で紹介させていただきます。
また、お知らせのとおり、来る、11月17日(金)の防災訓練に、ご見学・ご参加ください。
次号の発行は平成19年５月を予定しております。

(地域連携室　古賀)